

環境を学ぶ学生研究連携ネットワークの構築に関する研究	
題目	BRIDGE LIFE Platform (BLP) 構想を通じた成熟度評価
著者	小野田弘士

1. 概要

埼玉県久喜市の南栗橋駅前街区におけるグリーンフィールド型のプロジェクトとして、「BRIDGE LIFE Platform(BLP) 構想」を推進している。本プロジェクトを通じて、さまざまな技術開発・実証研究を展開するとともに、産学官民連携体制により、プロジェクト関係者、小野田研究室の学生が参画している。

2. 「BRIDGE LIFE Platform(BLP) 構想」の概要

「BRIDGE LIFE Platform 構想」は、埼玉県久喜市の南栗橋駅前街区で進められているいわゆるグリーンフィールド型のまちづくりと次世代モビリティの導入検討を一体的に進めているプロジェクトである。2021 年 11 月 10 日、久喜市、東武鉄道株式会社、トヨタホーム株式会社、イオンリテール株式会社、早稲田大学小野田研究室の 5 者間協定により、まちづくりを推進していく旨を公表し、2022 年 5 月 26 日にまちびらきのイベントを実施した(図 1、2)。ここでの筆者らの役割は、自動配送や非接触ゴミ収集のモビリティの新しいコンセプトを提示し、社会実装に向けた取り組みを推進するとともに、地域市民向けに環境教育等の推進もし、社会受容性の獲得に向けた取り組みを推進している。

3. 2022 年度の研究成果

- 2022 年度の主たる活動は下記のとおりである(図 3)。
- 2022 年 5 月 26 日に現地記者発表会、まちびらきイベントを実施し、その時点での研究成果の展示を行った。
 - 2022 年 10 月 22 日、23 日にプロジェクトの周知を目的としたまちづくりイベントを開催した。このなかで、小学生を対象とした「BLP 未来教室」を開催し、小野田研究室の研究成果を提示した。
 - 2022 年 12 月 4 日に開催されたイルミネーションイベントに参加し、小野田研究室の研究成果の展示を行った。
 - 上記以外でも本学理工学術院が主催する科学実験教室「ユニラブ」(2022 年 8 月 7 日)やモビリティ開発で連携している「本庄早稲田モビリティ共創プロジェクト」と連携し、「ほんじょう産業フェスタ」(2022 年 11 月 17 日)に参画し、社会受容性獲得に向けた取り組みを継続的に実施した。
- 以上の取り組みを通じて、社会受容性の獲得に向けた成熟度評価を継続的に行う研究に着手した。

謝 辞

本研究は、筆者が関与している「BRIDGE LIFE Platform 構想」、「本庄早稲田モビリティ共創プロジェクト」の成果の一部をまとめたものである。関係者の皆様に御礼申し上げる。



図 1 「BRIDGE LIFE Platform 構想」の記者発表 (2021 年 11 月 10 日)



図 2 まちびらきイベント(2022 年 5 月 26 日)

	共通認識の醸成・開発				機能検証(走行試験)				サービス実証(配送実証)			
	2022年 ~2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
小型配送モビリティ	昨年10月からはMCMの配送実証		Follow-upの足回りの開発	まちびらきイベント5/28	SRLの向上	外装の開発	公道走行に対応した外装の修正		まちびらきイベント10/22	本庄イベント11/19	まちびらきイベント12/4	SRLの向上
中型配送モビリティ			2021年10月からコンセプトの決定 ~2月にフレーム製作	街区での試走	LC-RLの向上							PRLの向上
人搭乗型モビリティ								人搭乗モデル・PV取り付け				LC-RLの向上
非接触型ゴミ収集用モビリティ	昨年10月からはMCMの移動式ゴミ収集実証		MCMの移動式ゴミ収集実証		広島工場での実証			ULV・Transの走行実証・配送実証	700 L型テナ走行実証			マルチベネフィットレーダーのテスト

図 3 2022 年度の取り組み